

“塩の聖地”

塩竈に残った神棚と竈

宮城県中央にあり、陸奥国一宮・鹽竈神社の門前町として知られる塩竈市。鹽竈神社の末社である御釜神社には、製塩法を伝えたと言われる鹽土老翁神が祀られている。塩竈はその地名にもあるように、古くから塩づくりが盛んだった土地だ。「合同会社顔晴れ塩竈」は、“塩の聖地”であるこの町を活性化させるために5年前に設立、水産加工工業を本業とする及川さんの工房の一部を改装し、2年前から昔ながらの製法で塩をつくり続けてきた。

あの日、塩竈の町も津波に襲われ、工房も神棚と竈だけを残してすべてが流された。「友人が亡くなり、先輩も奥さんを使い、後輩は家族を失いました。私たちがまわりには、そういうことがたくさんありました……。工房も神棚と竈しか残りませんでした。こうした現実を見たときに、“我々がいち早く復興して、町のみんなと一緒にスクラムを組んで乗り越えていかなければならない”と思いました」

そして「顔晴れ塩竈」は、5月16日に塩づくりを再開。及川さんは復興のために“スピード感ある塩づくり”が重要だと話す。「家を失い、仮設住宅に入居する人もたくさんいます。そうした人たちが安定的な給与をもらえるような産業をいち早く立ち上げないと、町そのものが沈んでしまう。塩竈は生マグロの水揚げ、かまぼこの生産が日本一です。かまぼ屋さん、お菓子屋さん、みんな工場がダメになってしまった。復旧するためには1億、2億の資金が必要になる。ただでさえ、厳しい状況下でしたから借財もあるでしょう。さらに二重の借財を抱えてできるだけでしょうか？」

海のことは、

海のそばで伝えていく

及川さんは今、“塩”を中心にして再び塩竈に活気を戻そうと考えている。そのひとつが塩竈の歴史を語る“塩ミュージアム”を海に近い場所につくることだ。「どこ故郷にも、埋もれている“お宝”があるはずですよ。それを掘り起こして、まちづくりや地域活性化のために動かしていきたい。ここは海の町です。海の者が山へ行って仕事はできないので、海のこと、港のことを伝える人間が山の上で伝えるわけにはいかない。海のおいを感じながら、そこを訪れた人が我々と同じ気持ちになって、海を感じて帰っていく。そのためには、海の近くで塩づくりが意味がない。“もし津波がきたらどうする？”と尋ねられたら、私は“逃げればいい”と答えます。津波で施設がやられても、人が逃げられたらいいんですよ。施設はまたつくればいいんですから」

“塩ミュージアム”建設にあたり、問題となるのはやはり資金。瓦礫の撤去、仮設住宅の建設などに奔走する行政には頼れない。そこで、及川さんは町の人たちの力で施設をつくりたいと考えている。「100円でも200円でも金額はくらでもいいんです。塩竈市民から寄付をいただきたい。そのお金には、みなさんの気持ちも含まれているので、必ず後方支援をしてくれるはずなんです。県外に住む知り合いや親戚に“いい施設があるよ”と宣伝してくれる。つまり、寄付をいただいたみなさんが“営業マン”になるんです。こんなに力強いことはないですよ」

The surviving family shrine and hearth in Shiogama, the “sacred place of salt”

Shiogama City is known as the temple city of Mutsunomiya Shiogama Shrine, located in the centre of Miyagi prefecture. In Okama Shrine, the sister of Shiogama Shrine, the deity which is said to have taught the secret of making salt is enshrined. Just as the name Shiogama suggests (translated as place of salt making), this city has a long history of salt production. The company Gambare Shiogama was established 5 years ago in order to revitalize the economy of this area which is known as the “sacred place of salt”. Fumio Oikawa, whose main occupation is fish processing, renovated a part of his workshop and for the last two years has been implementing the traditional method of salt making.

Then, the tsunami came and destroyed Shiogama, leaving Fumio with only the family altar and the hearth.

“I lost my close friends, my senior lost his wife, and my younger colleague lost his whole family. Such events were happening all around me. In the workshop, only the family altar and the hearth remained. When I took in this reality, I



故郷に埋もれている“宝”を掘り起こし

町の人々が誇れる塩ミュージアムをつくりたい

Unearthing the Buried Treasure of our Home Town Establishing a Place which Citizens Can Be Proud Of

塩竈市港町(宮城県)
合同会社 顔晴れ塩竈 代表 及川文男
Minatomachi, Shiogama City (Miyagi Prefecture)
Gambare Shiogama Company / Leader Fumio OIKAWA

「原発電屋が水素爆発を越えした1日目に家族会議をして、そのときは自宅にとどまりましたが翌日、もうひとつが爆発したときには“ここを出よう”と、東京に住む兄のところに避難しました。ただ、地元に残った友人たちから“地震以降まったく物質が入ってこない”と聞いたので、いてもたってもいられなくなり、“(物質を)自分で持って帰ろう”と考えました」

ツイッター上で物資・ドライバー・トラック募集の呼びかけを行ったところ、100名以上の人たちが集まり、トラック1台分の物資とドライバーを確保。すぐさま小浜へ向かい、翌日には仕分けの協力をツイートした。すると、地元の若者15名ほどが軍手とマスク姿で集まってくれたのだ。その後も支援物資の配布や炊き出しなどの活動を行っていたが、徐々に必要とされることも変化する。4月13日に支援物資部隊をひとまず解散し、次の活動に移りはじめた。

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

大家の期待、一定会继续支援博物馆。会向外地的朋友和亲戚宣传“这是个博物馆”。也就是捐钱的大家会成为“宣传员”。没有这效果更棒的了。

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

大家の期待、一定会继续支援博物馆。会向外地的朋友和亲戚宣传“这是个博物馆”。也就是捐钱的大家会成为“宣传员”。没有这效果更棒的了。

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

「『顔晴れ塩竈』は5月16日重新开始制盐、及川先生表示、为了顺利复兴，“有速度感的城镇再造”是很重要的。「许多人失去家园，居住在临时住宅里。如果不让那些人有稳定的收入，城镇本身就会没落。盐竈这里腌制鲔鱼和制作鱼板的数量是日本第一。鱼板、零食店、大家的工厂都损坏了。为了重新出发，需要一亿两亿的资金。但是从前经营就十分吃力，也有债务，现在还能够再负担第二次负债吗？」

当事者になって

はじめてわかったこと

震災後、一気にその名前が世界中に知られることになった“福島”。ネガティブなイメージばかりが伝わってしまうなかで、自分たちの町が持つ“良いもの・宝”を発信していくと活動する団体がある。それが福島第一原発から50km圏内にありいわき市小浜浜出身者で結成された『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』だ。メンバーである末永さんは、いわき市でフェアトレードのコーヒー豆を販売する『株式会社 ethicafe』の代表でもある。末永さんの支援活動は震災直後、【MUSUBU】の立ち上げ前にさかのぼる。

「原発建屋が水素爆発を越えした1日目に家族会議をして、そのときは自宅にとどまりましたが翌日、もうひとつが爆発したときには“ここを出よう”と、東京に住む兄のところに避難しました。ただ、地元に残った友人たちから“地震以降まったく物質が入ってこない”と聞いたので、いてもたってもいられなくなり、“(物質を)自分で持って帰ろう”と考えました」

ツイッター上で物資・ドライバー・トラック募集の呼びかけを行ったところ、100名以上の人たちが集まり、トラック1台分の物資とドライバーを確保。すぐさま小浜へ向かい、翌日には仕分けの協力をツイートした。すると、地元の若者15名ほどが軍手とマスク姿で集まってくれたのだ。その後も支援物資の配布や炊き出しなどの活動を行っていたが、徐々に必要とされることも変化する。4月13日に支援物資部隊をひとまず解散し、次の活動に移りはじめた。

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

「復旧・復興活動だけでなく、長期的な地域活性を視野に入れて活動をしていくことを考えた。そして、一緒に活動していた地元出身者が『地域活性プロジェクト【MUSUBU】』を立ち上げました。その名の通り、“人と地域と世界を結ぶ”という意味を込めています。今回の震災を通して、はじめて自分が当事者になりました。そしてあらためて“いかに外の人たちに関心を持ち続けてもらうか？”ということが大切なんだと痛感しました。情報を発信し続け、これからも“福島で起きていること”を見続けていきたいと思います」

“助けて”のメッセージから

宝を伝えるメッセージへ

いわきから明るいニュースを世界に発信するべく、【MUSUBU】は音楽イベント、スポーツイベント、仮設住宅に入居した人たちとのコミュニケーションづくりのための“場づくり”を企画している。6月26日には、津波の被害を受けた小名浜潮目交流館で

『Hooked on Iwaki Vol.1 〜小名浜潮目交流館をキレイにして音楽を聴こう！〜』を開催。まだ泥が残り、もちろん電気も通っていない会場を整備するところからはじまりだった。「『Hooked on』には“夢中になる・ハマる”という意味があるんですが、このイベントをきっかけに小名浜が復興に向けて一歩踏み出したというのをメッセージとして発信していきたいから。会場となった小名浜潮目交流館は津波で大きなダメージを受けていましたが、前日の25日にボランティアの方々に呼びかけて泥の掃除をして、発電機を入れて、照明をつけて、翌日のイベントに備えました。10年ほど前にいわき市の海岸でプロモーションビデオを撮影したミュージシャン“くるり”に参加していただき、大雨の中、多くの方に集まっていたので、とてもあたかい雰囲気イベントになりました」

テレビや新聞など、いわゆる“ニュース”の中に登場する“福島”の文字は、不安や悲嘆とともに私たちの目に入ってきてしまう。しかし、その外側にはそこで暮らす人たちの生活があり、文化があり、新しく生まれていくものもある。【MUSUBU】が発信するのは、そうしたところにある“宝を伝えるメッセージ”だ。

「【MUSUBU】は常に“ワクワクすること”をやろうと考えています。“誰かのために・誰かが困っているから”ということよりも、まずそれに携わる私たちがワクワクするかどうか大切にしているんです。そのことによって、携わってくださった方が一緒にワクワクして、それがみなさんに伝わればいいと思います」

Things I have realized since I became a victim

In one stroke after the quake the world “Fukushima” became known across the world. With the constant transmission of negative images, a group of locals have decided to undertake efforts in the promotion of the treasures and all the goodness of their town. This is a group based in Onahama, Iwaki city, Fukushima prefecture, going under the name of “Community Activation Project MUSUBU”. One of the members, Sayaka Suenaga, is also the representative of “ethicafe Ltd.”, a company which sells Fair Trade coffee beans in the city of Iwaki. The support activities Sayaka has been involved in date back to directly after the earthquake, before the establishment of “MUSUBU”.

“The day there was an explosion at the nuclear plant, we held a family meeting, and stayed the night shut-in at home, but when there was another explosion the next day, we decided ‘let's get out of here’, and evacuated to my brother's home in Tokyo. But upon hearing from a close friend that they had received no supplies since the earthquake I decided to gather materials and return.”

After making an appeal for supplies, a driver,

and a truck on twitter, one hundred people gathered, and a truckload of goods and a driver were secured. Swiftly setting out for Onahama, the next thing was to find people who would cooperate with distribution, again through twitter. As a result, fifteen local volunteers equipped with gloves and masks came to her aid. After that, activities to deliver aid and prepare meals still continued, but the things that were needed gradually changed. On April 13, the aid group was dissolved for the time being, and the move to another initiative began.

“Not just focusing on restoration / regeneration support, I also gave consideration to the long-term revitalization of the community through our activities. In continuing to do these activities for the foreseeable future, I wanted people in the community to remember the name of our group, so I launched “Community Activation Project MUSUBU”. As the name states (MUSUBU means “connect” in Japanese), the meaning can be extended to the idea of “connecting people, communities, and the world”. Through the disaster I have become a concerned person and I strongly felt the importance of gaining the concern of people elsewhere too. While continuing to distribute information, I want people to keep an eye on what is happening in Fukushima.”

From help messages, to messages of treasures

Wanting to transmit bright news from Iwaki to the world, “MUSUBU” has been organizing music events, and creating a “space” encouraging communication between the people staying in temporary housing. On June 26 at the Onahama Shiome Cultural Exchange Center, a place suffering serious damage from the tsunami, the event “Hooked on Iwaki Vol.1 - Let’s clean up Onahama Shiome Cultural Exchange Center and enjoy music together!” was held. It began with a clear-up of the space where mud still remained and where, of course, there was still no electricity. “The words “Hooked on” mean “To lose yourself or get wrapped up in something”, but the message I hoped to convey through this event was that Onahama has taken a step towards regeneration. The venue of Onahama Shiome Cultural Exchange Center had suffered terrible damage at the hands of the tsunami, but the day before the event, we called volunteers to help clean up the mud, install an electric generator, and set up lighting in preparation for the event the next day. The musician “Kururi” who ten years before had shot a promotion video on the coast of Iwaki City was also one of the participants, and even though it rained heavily on the day, a great number of local people gathered.”

The words and images of “Fukushima” appearing in the news fill us with anxiety and sorrow. However, behind these images there are people getting on with their lives, there is culture, and the creation of new things. What “MUSUBU” transmits is “a message conveying the treasure of Fukushima”.

“I think “MUSUBU” is always trying to do “something exciting”. Rather than being “for an individual”, or “for someone in trouble”, we are

「在推特上面募集了物资、卡车、司机之后，集结了100名人员。约1台卡车的物资，也确保了司机人选后就立刻成立小浜出发。另外又在推特上募集了帮忙分送物资的人。于是集结了当地15位左右的青年，他们戴着白色工作手套以及口罩来帮忙。之后也进行了援助物资的发放以及故事等多项活动。可是，慢慢的需求却起了变化，4月13日援助物资部队先行解散，开始了接下来的活动。

「我所想的是，不仅停留在重建、恢复原貌，而是将视野放在长期性的地区活性化这个概念去进行活动。我想，今后进行活动，若有个组织的名称，那么地方人士们也比较容易记得，于是「地区活性化企画案【連結】」就此诞生。正如名字所代表的意义“连结人与地区与世界”。由于这次的地震灾害，我第一次成了受难者。重新，我深刻的认识到“要如何让别人关心我？”是很重要的，我不断的传达讯息，希望今后持续的关注“福岛所发生的一切。”

让传达魅力的讯息，取代“救救我”的讯息

应该要从【IWAKI】发送正面阳光的新闻给全世界才对。【連結】正进行几个企画。像是音乐活动、体育活动、制造一个能让被迫临时性宅居的人们相互交流的场所。6月26日在受到海啸侵袭的【小名浜潮目交流馆】内举办了一场『Hooked on Iwaki Vol.1〜将小名浜潮目交流馆打扫干净，大家来听音乐！〜』的活动。会场还残留有泥泞，当然也没有电，但是透过整顿整理当作一个起点。

「Hooked on」有着迷、迷恋的意思，若能将这次的活动当作契机，将小浜已踏出迈向重建之路的讯息传达出去，那该有多好。这次利用来作为会场的【小名浜潮目交流馆】受到了海啸的重创。但是，前些日子25日志工们呼吁引伴、清除泥泞、装置发电机、点亮了照明，准备第二天活动之使用。大约在10年前居住在【小名浜海边拍过一场宣传影片，我们也拍摄了当时的宣传片“kururi”】到场参加，当天虽然下起了大雨，但是，仍然有许多当地的居民们来参加。

虽然，在电视或报纸上，也就是所谓的“新闻”中出现的“福岛”这个文字，总给我们不安以及悲情的联想。不过，在其周边却有着在那儿生活着的人们他们的生活、文化以及新生的种种。【連結】所要传达的正是隐藏在其中的魅力。

【連結】常常都想着一些令人兴奋的点子，与其说是特别为了谁，或是因为谁有困难才去行动，我们重视的是能否让参与其中的我们感到振奋人心。如此一来，参与我们的各位也能一起振奋人心，若能将这些份热情传达给大家，那该有多好！」

地域活性プロジェクト【MUSUBU】福島県いわき市と東京を拠点に活動中。地域活性化活動の企画・運営、イベント企画・運営、商品のコラボレーション企画や開発、PRも行う。オリジナルアイテムを販売するOnlineShop (http://musubu.shop-pro.jp/) もオープン。
►URL : http://musubu.me/

【Community Activation Project “MUSUBU”】With active bases in Iwaki city, Fukushima and Tokyo, MUSUBU is organizing and managing community activity, running events, supporting product collaborations and promoting the town. You can also find original goods on their online shop
URL : http://musubu.shop-pro.jp/

placing importance on whether the things we are engaged in are exciting or not. Through this activity we hope that all whom get involved can share in this excitement, which can be positively promoted to others.”

당사자가 되어 처음으로 깨달음 .

지난 후, 단번에 그 이름이 전세계에 알려지게 된 후쿠시마”. 부정적인 이미지가 아니라 긍정적인 가운데 우리 마을에 있는 ‘좋은 것, 보물’을 발산 하자는 의도로 활동한 단번에 깨달음 .

그것이 후쿠시마현 이와키시 오나하마 출신자들로 결성된 지역 협회활동 프로젝트【MUSUBU】다. 멤버인 스나카가네는 이와키시에서 Fair Trade (주: 개발 도상국들에게 불공정한 무역을 하지 않기 위해 노력하는 자의 의문, 대안 무역으로도 불리함)의 의 원두 커피를 판매하는 주회사 ethicafe 의 대표 이기도 한다.

스나카가네의 지원 활동은 지난 작년【MUSUBU】가 활동들 시작하기 이전으로 거슬러간다. “원칙적 발전소가 폭발한 지체날 가족 회의를 했어요. 그때는 집에 머물렀었는데 다음 날 또 하나가 폭발하면서 ‘여기를 떠나자’고 해서 도쿄로 사는 오후 집으로 피신했었어요. 그러나 지역과 동네 친구들로 부터 지원으로 인해 물, 식량이 전혀 없었어”고 듣게 되었고, 그래서 (식량과 물자를) 가지고 다시 돌아가지”고 생각했습니다.

토끼리(writer)에서 물자를 모으고, 온전해 주실분, 트럭을 빌려주실분을 모였습니다. 100명 이상의 사람들이 모였어 트럭 1 대 분의 물자와 온전해 주실분을 확보했어요. 바로 오나하마를 찾았고, 다음에는 물자를 정리하는 일도 도와줄 자원 봉사자들을 찾는 일을 부탁하여 써서 협력을 호소했어. 그랬더니 이 동네에서는 젊은이 약 15명이 장갑과 마스크 차림으로 모여 온 것이지. 이후에도 지원 물자의 배로 및 무료 식사제공 등의 협력을 받았지만, 조금씩 시간의 경과와 함께 화재 지역이었던 중요한 일들도 배로로 바뀌었어. 4월 13일 있었던 지원 물자를 모으고 배로로 가는 ‘행동들’을 해서 사가나 다들 많은 단점의 활동들 시작했어. “흙, 그리고 부를 활동하는 일이라면 힘을 쓸 것이 아니라 이제는 활기적으로 지역을 활성화 하는 일도 영두에 활동을 하고요 생각했습니다. 앞으로 활동 하는데 있어서 우리들의 이름을 통해, 지역 분들도 쉽게 기억할 수 있게 지역 협회활동 프로젝트【MUSUBU】의 이름으로 발표했습니다.” (주: ‘MUSUBU’는 일본어로 ‘연대, 맺다’ 라는 의미) 이 프로젝트 이름은, ‘사랑, 지극, 그리고 세계를 맺는다. 혹은 연결한다.’ 는 의미를 담고 있습니다. 이번 지원 활동을 통해 처음으로 스스로가 어떤 피해의 당사자가 되었다. 그리고 다시 한번 생각을 하게 되었습니다. ‘이렇게 해야 되며 있는 사람들이 우리에게 관심을 가져줄까?’ 하는 생각이 무엇보다도 소중한 것임을 느꼈습니다. 정보를 발신하고, 앞으로는 후쿠시마에서 일어나는 일들’을 계속 지켜봐 주셨으면 합니다.”

“도약주의요!”

메시지가 보물을 전하는 메시지로

이와키에서의 밝은 뉴스를 세계로 발신하기 위해,【MUSUBU】에서는 음악 이벤트, 스포츠 이벤트, 가족을 위한 축제와 사람들의 커뮤니케이션을 활성화 하기 위한 ‘함정’을 열기하고 있다. 6월 26일에는 지역인 스나카가네의 협회활동인 오후미와 시오메 교류관에서 ‘Hooked on Iwaki Vol.1 - 오나하마 시오메교류관을 깨끗하게 청소하여 음악을 듣자-’ 라는 이름으로 이벤트를 개최했다. 물론 아직 진흙이 남아 있고, 전기도 없는 이 장소를 정화하는 일 부터 시작했어. “Hooked on” 이는 ‘몰두한다, 빠진다’ 라는 의미가 있어요. 이 이벤트를 계기로 오나하마 부속-사가네를 향해 한 걸음 나아갔다는 것을 메시지로 발신했으니까요. 그리고 이미 이벤트 장소인 교류관에서 시오메를 한 바퀴를 걸었지만, 전날인 25일, 자원 봉사자들 덕분에 발았던 진흙을 청소하고, 발광기 불고, 조명을 설치해 이벤트를 준비했어요. 10년에 전하여 이와키시의 해안에서 부속 내외로 촬영했던 뮤지션 ‘쿠루리(Kururi)’도 참여해 주었고, 당일 밤이 밝아 가면서 많은 사람들이 모여 주셨습니.”

TV 뉴스 등 온·오프 뉴스 속에 등장하는 ‘후쿠시마’란 글자는 불안과 슬픔을 상징하며 우리의 눈앞으로 다가옵니다. 그러나 그 반대에는 기쁨도 사랑도 희망도 있고, 문화가 있으며, 사람들이 태어나는 곳이기도 한데요. 【MUSUBU】가 발신하려는 것은, 이런 후쿠시마 지역에는 있는 ‘보물’을 전하려는 메시지 라고 할 수 있겠. 【MUSUBU】에서는 항상 ‘가슴이 두근두근 설레게 하는 일’을 하고있어 왔지요. ‘누군가를 위하여, 도움을 원하는 사람을 위하여’라는 보다는, 먼저 그 것에 동참하고 있는 우리가 설레이고 흥얼거리며 즐길 수 있는지를 의문을 품고 있어 왔어요. 그것으로써 참여해주신 분들에게 즐거워 주고, 열과 성으로 더 많이 이들에게 전해드리고 싶을 것입니다”

成了当事人之后才终于了解的事

地震之后，“福岛”这个词一下字成了全世界的焦点，在几乎是一面倒的负面消息中，出现了一个希望将自己的家园描绘出的“好的一面以及魅力”等讯息传达出去的团体。那些是出生于新潟县 Iwaki 市小名浜的大家伙所组成的「地区活性化企画案【連結】」，其中一个成员末永先生也是在 Iwaki 市从事贩卖公平贸易咖啡的「株式会社 ethicafe」的代表。末永先生从事援助活动可追溯到地震发生之前的很久，在【连结】成立之前，他从参加志愿活动的第一天，家族们开了一个会议商讨，当时大家都还留在家中，但第二天又发生了爆炸事件，于是决定“离开家乡”到住在东京的哥哥那儿避难。不过，一听到家乡的朋友们告知“地震后完全没有任何物资”的消息之后，就决定坐立难安，最后决定“自己将‘物资’运送回去”。

「在推特上面募集了物资、卡车、司机之后，集结了100名人员。约1台卡车的物资，也确保了司机人选后就立刻成立小浜出发。另外又在推特上募集了帮忙分送物资的人。于是集结了当地15位左右的青年，他们戴着白色工作手套以及口罩来帮忙。之后也进行了援助物资的发放以及故事等多项活动。可是，慢慢的需求却起了变化，4月13日援助物资部队先行解散，开始了接下来的活动。

「我所想的是，不仅停留在重建、恢复原貌，而是将视野放在长期性的地区活性化这个概念去进行活动。我想，今后进行活动，若有个组织的名称，那么地方人士们也比较容易记得，于是「地区活性化企画案【連結】」就此诞生。正如名字所代表的意义“连结人与地区与世界”。由于这次的地震灾害，我第一次成了受难者。重新，我深刻的认识到“要如何让别人关心我？”是很重要的，我不断的传达讯息，希望今后持续的关注“福岛所发生的一切。”

「在推特上面募集了物资、卡车、司机之后，集结了100名人员。约1台卡车的物资，也确保了司机人选后就立刻成立小浜出发。另外又在推特上募集了帮忙分送物资的人。于是集结了当地15位左右的青年，他们戴着白色工作手套以及口罩来帮忙。之后也进行了援助物资的发放以及故事等多项活动。可是，慢慢的需求却起了变化，4月13日援助物资部队先行解散，开始了接下来的活动。

「我所想的是，不仅停留在重建、恢复原貌，而是将视野放在长期性的地区活性化这个概念去进行活动。我想，今后进行活动，若有个组织的名称，那么地方人士们也比较容易记得，于是「地区活性化企画案【連結】」就此诞生。正如名字所代表的意义“连结人与地区与世界”。由于这次的地震灾害，我第一次成了受难者。重新，我深刻的认识到“要如何让别人关心我？”是很重要的，我不断的传达讯息，希望今后持续的关注“福岛所发生的一切。”

「在推特上面募集了物资、卡车、司机之后，集结了100名人员。约1台卡车的物资，也确保了司机人选后就立刻成立小浜出发。另外又在推特上募集了帮忙分送物资的人。于是集结了当地15位左右的青年，他们戴着白色工作手套以及口罩来帮忙。之后也进行了援助物资的发放以及故事等多项活动。可是，慢慢的需求却起了变化，4月13日援助物资部队先行解散，开始了接下来的活动。

「我所想的是，不仅停留在重建、恢复原貌，而是将视野放在长期性的地区活性化这个概念去进行活动。我想，今后进行活动，若有个组织的名称，那么地方人士们也比较容易记得，于是「地区活性化企画案【連結】」就此诞生。正如名字所代表的意义“连结人与地区与世界”。由于这次的地震灾害，我第一次成了受难者。重新，我深刻的认识到“要如何让别人关心我？”是很重要的，我不断的传达讯息，希望今后持续的关注“福岛所发生的一切。”

让传达魅力的讯息，取代“救救我”的讯息

应该要从【IWAKI】发送正面阳光的新闻给全世界才对。【連結】正进行几个企画。像是音乐活动、体育活动、制造一个能让被迫临时性宅居的人们相互交流的场所。6月26日在受到海啸侵袭的【小名浜潮目交流馆】内举办了一场『Hooked on Iwaki Vol.1〜将小名浜潮目交流馆打扫干净，大家来听音乐！〜』的活动。会场还残留有泥泞，当然也没有电，但是透过整顿整理当作一个起点。

「Hooked on」有着迷、迷恋的意思，若能将这次的活动当作契机，将小浜已踏出迈向重建之路的讯息传达出去，那该有多好。这次利用来作为会场的【小名浜潮目交流馆】受到了海啸的重创。但是，前些日子25日志工们呼吁引伴、清除泥泞、装置发电机、点亮了照明，准备第二天活动之使用。大约在10年前居住在【小名浜海边拍过一场宣传影片，我们也拍摄了当时的宣传片“kururi”】到场参加，当天虽然下起了大雨，但是，仍然有许多当地的居民们来参加。

虽然，在电视或报纸上，也就是所谓的“新闻”中出现的“福岛”这个文字，总给我们不安以及悲情的联想。不过，在其周边却有着在那儿生活着的人们他们的生活、文化以及新生的种种。【連結】所要传达的正是隐藏在其中的魅力。

【連結】常常都想着一些令人兴奋的点子，与其说是特别为了谁，或是因为谁有困难才去行动，我们重视的是能否让参与其中的我们感到振奋人心。如此一来，参与我们的各位也能一起振奋人心，若能将这些份热情传达给大家，那该有多好！」

地域活性プロジェクト【MUSUBU】福島県いわき市と東京を拠点に活動中。地域活性化活動の企画・運営、イベント企画・運営、商品のコラボレーション企画や開発、PRも行う。オリジナルアイテムを販売するOnlineShop (http://musubu.shop-pro.jp/) もオープン。
►URL : http://musubu.me/

【Community Activation Project “MUSUBU”】With active bases in Iwaki city, Fukushima and Tokyo, MUSUBU is organizing and managing community activity, running events, supporting product collaborations and promoting the town. You can also find original goods on their online shop
URL : http://musubu.shop-pro.jp/